

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第六小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>①事実と感想、意見との区別を明確にして、自分の考えを書く。 ②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇長文を書くことや、正しい文章構成や文章の書き方の習得に課題が見られる。</p>	<p>・文章を書く際に、縦書きや横書きの基本的な表記方法や、段落、句 読点等の使い方を指導する。作文の推敲のポイントを指導する。</p> <p>・月1回以上の作文指導の時間を、計画的に設定する。 →1つの出来事について、400字程度の作文を段落を意識して書ける。(目標値:80%以上の児童)</p> <p>・漢字の学習の際に、その漢字を分解して既習の漢字の組み合わせとして捉えられるようにするなど、覚え方の指導を進めていく。</p> <p>・授業開始の5分間に新出漢字の読み方の練習を常時活動として取り入れ、知識の定着を図る。 →新出漢字を用いて文を書くことができる。(目標値:80%以上の児童)</p>
算数	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」</p> <p>◇東京ベーシックドリルから学習の定着率(正答率)の二極化(正答率8割以上21%、正答率2割未満20%)</p> <p>◇わり算の筆算(四則計算を含む)を解く力に個人差が大きい。(解く力が十分と判断できる児童が20%である、課題の見られる児童が20%)</p>	<p>・課題解決の際に既習事項を根拠に、図や式、言葉を使って自分の考えを書く時間を確保する。(目標値:正しくかける児童75%以上)</p> <p>・Eライブラリ等でわり算などの基礎計算を繰り返し練習する機会を増やす。 →ワークテストやEライブラリ確認テスト等で、正しく計算できているか確認する。(目標値:正しく計算できている児童75%以上)</p> <p>・子供自身が自分の学習状況を正しく把握して、次の学びに活かすことができるように、学習後の振り返りの時間を設定し、教師が学びを見取り、深い学びにつなげていく。</p>
理科	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」</p> <p>◇実験や観察を行う上で、自分の予想をもつことが難しい児童が5%いる。</p>	<p>・予想を立てる際に根拠を明確にすることができるよう、表現の仕方を指導していく。 →ノートやワークシートに、根拠と共に、図や文章を用いて予想を書くことができる。(目標値:90%以上の児童)</p> <p>・予想、仮説、結果の整理、考察の流れを通年で指導し定着を図る。 →考察が60字程度の文章で書ける。(目標値:90%以上の児童)</p> <p>・問題をしっかり捉えさせてから予想を立てさせる。 →問題場面で教師の実演を入れたり、直接触ったりして違いや疑問をもった上で、予想を立てることができる。(目標値:90%以上の児童)</p>
特別の教科	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。</p> <p>◇普段の生活と授業内容を結び付けて考えられている児童が7割程度である。児童一人一人が、自分のこととしてより深く考えられるようにしていく必要がある。</p>	<p>・毎時間の教材提示や発問内容、授業展開を工夫し、自分事として考えられるよう、自分の考えを書く時間を必ず設定する。</p> <p>・特に児童自身に自分の生活を振り返ることができるような発問の工夫をする。 →毎時間、児童の発言やワークシートの記述から、自分のこととして価値項目について考えているか見取る。(目標値:考えを書いている児童90%以上)</p> <p>・授業の導入や終末の場面で、本時の価値項目に関連する日常生活の場面を想起させて、自分の生活と価値項目を関連付けて考えさせる。</p>